福島原子力事故関連情報アーカイブ
FNAA Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	NPO 放射線安全フォーラムが行ってきたこと
Alternative_Title	The activity of the NPO Radiation Safety Forum
Author(s)	田野井 慶太朗(東京大学), 多田 順一郎(放射線安全フォーラム), 高橋 浩之(放射線安全フォーラム), 加藤 和明(放射線安全フォーラム) Tanoi, Keitaro(Univ. of Tokyo); Tada, Junichiro(NPO Radiation Safety Forum); Takahashi, Hiroyuki(NPO Radiation Safety Forum); Katoh, Kazuaki(NPO Radiation Safety Forum)
Citation	第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集, p.102 53rd Annual Meeting on Radioisotope and Radiation Researches
Subject	セッション：東電福島第一原発事故関連__その他(2)
Text Version	Publisher
URL	http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/106840
Right	© 2016 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 53 回アイソトープ・放射線研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。

Japan Atomic Energy Agency

NPO 放射線安全フォーラムが行ってきたこと
The activity of the NPO Radiation Safety Forum

東京大学大学院農学生命科学研究科*1　　○田野井慶太朗*1*2
放射線安全フォーラム*2　　多田順一郎*2、高橋浩之*2、加藤和明*2
(TANOI Keitaro, TADA Jun Ichiro, TAKAHASHI Hiroyuki, KATOH Kazuaki)

1. はじめに

放射線安全フォーラム（以下 RSF）は、放射線防護の専門家が情報・意見交換をする場として 1985 年に設立した放射線防護研究会を前身とし、2007 年から特定非営利活動法人・放射線安全フォーラムとして活動を行っている。主な活動内容としては、講演会や資料の頒布などを通じて、広く社会に放射線安全に関する知識の普及を行っている他、放射線安全に関する知識や技術を相互研鑽する場として研究会（「放射線防護研究会」と「放射線安全検討会」の 2 種類）を定期的に開催してきた。こうした活動を行っている中、2011 年 3 月の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故（以下、福島第一原発事故）が生じ、本フォーラムでも事故関連テーマを取り扱うことが多くなった。

2. 福島第一原発事故を受けた活動

１）福島第一原発事故直後の 6 月には、「福島原発事故の対応考える」と題した放射線防護研究会を開催しているのを筆頭に、2016 年 4 月まで計 31 回の研究会を開催している。これらの研究会はホームページから登録申請することで参加可能であり、フォーラム会員は無料で参加できる。さらに会員は一部の過去イベントの講演資料を閲覧することも可能である。これら研究会では、テーマに合わせた専門家を招聘し情報提供をしていただくとともに、出席者と忌憚のない議論を展開している。

２）現地での活動も精力的に行ってきた。事故直後には飯舘村での試験除染から活動をスタートしたが、飯舘村が全村避難となり除染作業が困難になったことを契機に、隣の伊達市からの依頼に対応して富成小学校の除染などを行ってきた。その後、田中俊一副理事長（当時）は伊達市の市政アドバイザーに就任し、除染方法への助言や、放射線や放射能と健康影響に関する説明会を行った。2012 年に入ると多田順一郎理事が、川俣町の除染アドバイザーに、また田中副理事長（当時）を引き継いで伊達市の市政アドバイザーにも就任し、福島に宿を構えて活動を展開している。この間、コープふくしまからの要請に応じて、個人線量測定を希望するコープ組合員に対して測定結果の解釈の説明など、被災地住民の放射線・放射能に関する理解を助ける活動を展開してきた。

３）2015 年 9 月に、RSF と東京大学大学院農学生命科学研究科の主催で、スウェーデンへ学生を派遣し環境放射線学（radioecology）のワークショップを 2 回行った。1 回目はヨーテボリ大学、2 回目はストックホルム大学で行った。両ワークショップともに学生は合計 9 名、引率教員は田野井理事を含め 5 名が参加し、福島第一原発事故関連の研究発表を行った。またスウェーデン側も現在も行っているチェルノブイリ事故による環境汚染に関する研究発表を行った。スウェーデン内では日本以上に風評被害（デマ）が大きいことが印象的であり、参加者の誤解を解けたことは大きな収穫であった。未来を担う若い学生にとって、国際感覚を身につけることは必須であろう。こうした人材育成を今後も展開したい。

*1 Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo
*2 NPO Radiation Safety Forum